

活動名 東区障害児のためのサマースクール	団体名	東区障害児のためのサマースクール
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 川尻七美
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>障害を持つ子ども達が</p> <p>①夏休みを有意義に過ごせるように、身近な地域での居場所づくりをし、将来就労を支える余暇活動を豊かに積極的に行う。</p> <p>②地域との交流、連携を図り、理解を深める。</p> <p>③仲間との外出を楽しむ(特に肢体不自由児)</p> <p>を目的としています。夏休みの10日間、講師を招いてクッキング、レクリエーション、スポーツ活動、フィットネス、作業所のレク、コンサート、ボーリング大会、ボランティアさんによるミニ運動会、フラダンスを行いました。</p> <p>◆実施時期 夏休み中の10日間 東区総合福祉センター、心身障害者福祉センター、広電ボウル</p> <p>◆参加人数 広島市立特別支援学校児童生徒 17人、 小中学校特別支援学級児童生徒 17人、 県立特別支援学校児童生徒 3人、 小中学校児童生徒 2人、 ボランティア(民生委員含)のべ 74人 指導員 6人、 保護者 38人で 10日間、開催。 参加総人員 528名</p>		



フラダンス



ミニ運動会



ボーリング受付にて



ボーリング1位表彰

◆実施に伴う効果

- ・民生委員さんをはじめ、社協さん登録のボランティア、ヤングボランティアセミナーの受講生の方など地域の方が障害のある子どもたちと触れ合って理解を深めていただけた。
- ・地域との交流というところでは、東区尾長地区の一人暮らしお年寄りのグループひまわりかいさんがおいでくださり、レクをしていただいた。東区内の知的障害者が通う作業所、きつつき作業所、つくしんぼ作業所も毎年恒例で来ていただき、どれも大変好評でなくてはならないものとなっている。
- ・活動後のアンケートでは(回収率100パーセント)満足した、が92パーセントで高い満足度となっている。長い夏休み中の障害児の居場所としてなくてはならないものと定着している。

◆苦勞した点

- ・予算については今年度はマツダ財団様より助成金を頂くことができたので比較的、余裕があった。しかしながら子ども達の活動の安心、安全の為には指導員を置くことが絶対不可欠であり、今後も予算のことを考えながら指導員の数を減らしたり、増やしたりと一喜一憂することが毎年苦勞する点である。
- ・地域の理解という点で、東区総合福祉センターは障害児者のみではなく高齢者、乳幼児も広く利用する場所であるゆえに、東区サマースクールの障害児が乳幼児の利用する部屋に入りこんだり、また、今年、一名の障害児が乳幼児に(悪気は全くないのだが)叩くという事件が起きた。無論、心からの謝罪をしたのは言うまでもないが、センターの管理側はすぐ理解を示してくれたのだが、やはり被害乳幼児の母親の立腹はなかなか納まらなかった。この点は永遠の課題である。
- ・昨年のアンケートから人気のあった企画を、と考えるがなかなか小学校1年～高校3年生まで皆が楽しめるという企画は難しい。講師の予約、調理室の予約なども確保するのが毎年苦勞している。

◆今後の課題・発展の方向性

課題

- ・予算の確保は毎年の課題である。助成金がある年とない年で指導員の数が増減するのは本当は避けたいものである。今年は助成金があり、すごく助かった。
- ・この事業を引っ張ってきた役員が今年度、卒業の子どもが多く、事業の存続を担ってくれる保護者がほしい。あと、三年は大丈夫だが後継者問題が出てきている。

今後の発展性

- ・長い夏休みの障害児の行き場としてこの会は今年度9年目ということで定着している。また、他の区でも事業を開始した、と聞いている。
- ・地域の中で仲間と過ごしていない障害児はまだたくさんいる。さらにネットワークを拡げてゆきたい。
- ・今年度、瀬戸内高校の生徒さんのボランティアがたくさん来ていただけた。障害児とはゆえ、やはり同世代の子どもとのふれあいも大切にもっと学校にも呼びかけてゆきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度で9年目の本事業ですが、毎年内容もよくなっていると自負している。地域との交流も昨年より民生委員さんも年中行事に組みこんでくださり、益々発展している。参加者の満足度も92パーセントと高いものになっている。もはや、東区の夏休みの活動としてなくてはならないものとなっている。ずっとこの事業が続けていけるように子どもが卒業してもサポートしてゆきたい。

特に今年はマツダ財団様より助成金を頂けたおかげで指導員体制が強化でき、またバスも借り上げられ、皆でのお出かけも実現できました。本当にありがとうございました。